

校長だより【85】東高の「探究的学習発表会」 040128



12月21日、**2学年生が、総合的な探究の時間に「探究発表会」**を開催しました。前の時間に各クラス全員で発表を行い、相互に評価され選ばれた各クラス7人の代表者たちが、**ポスターセッション**で発表を行いました。



「人は何故嘘をつくのか」「スマホ依存を抜け出すには」「紙製の本はなぜなくなるのか」「本能寺の変の黒幕は誰?」「宿題の必要性」「人と仲良くなるためには?!」など様々なテーマがあり大変興味深かったです。それぞれ5分ほどでプレゼンテーションをした後、参集した他クラスの生徒も含む生徒達との質疑応答(QA)タイムがあります。

The image displays six hand-drawn posters from a school presentation event. Each poster is a student's response to a specific topic, featuring text, diagrams, and charts.

- Poster 1: 人は何故嘘をつくのか (Why do people lie?)**
 - 根拠1: 人と関わるときは嘘が必要 (When interacting with people, lies are necessary).
 - 根拠2: 誰か傷ついたり嘘が存在している (Someone gets hurt or lies exist).
 - 根拠3: 虚言癖の要因 (Factors of lying habits).
 - 結論: 外界から自分を守る防衛行為のひとつ (One of the defensive behaviors to protect oneself from the outside world).
- Poster 2: スマホ依存を抜け出すには (How to overcome smartphone addiction)**
 - スマホ依存とは? (What is smartphone addiction?)
 - スマホの現状 (Current state of smartphones).
 - 健康被害 (Health damage).
 - 解決策の提案 (Proposed solutions).
- Poster 3: 紙製の本はなぜなくなるのか (Why are paper books disappearing?)**
 - 装丁や紙質、インクや活字の種類などに価値を感じて買う人が少なくなるから (Because fewer people feel value in buying books due to binding, paper quality, ink, and type).
 - アンケートでは紙製派が圧倒的 (In the survey, the paper book faction is overwhelmingly dominant).
 - 紙製派 (Paper book faction) statistics: 465 vs 500.
 - 紙製の本が少なくなると印刷業界は困る (The printing industry will be troubled if paper books decrease).
- Poster 4: 本能寺の変の黒幕は誰? (Who is the black幕 behind the Honnō-ji Incident?)**
 - 本能寺の変の概要 (Overview of the Honnō-ji Incident).
 - 秀吉説 (Hideyoshi theory).
 - 家康説 (Iyeyasu theory).
 - 朝廷説 (Imperial court theory).
 - 結論 (Conclusion).
- Poster 5: 宿題の必要性 (Necessity of homework)**
 - 海外の宿題 (Homework abroad).
 - 必要性 (Necessity).
 - 結論 (Conclusion).
- Poster 6: 人と仲良く (Getting along with people)**
 - 時間、同期、互恵の3つのポイントが大切 (Time, synchronization, and reciprocity are three important points).
 - 根拠1: 得意は得意な時間、得意な人と仲良くするために (Skill is skill, time, and skill are important for getting along with people you are good at).
 - 根拠2: 2人だけのコソコソよりも、みんなの前で仲良くする (It's better to be friendly in front of everyone than in secret).
 - 根拠3: 3人同時行動は自己満足以上 (Simultaneous action of 3 people is more than self-satisfaction).
 - 結論 (Conclusion).

さらに、12月の27日には、皆さんのGoogle Formによる評価で選ばれた学校代表2名が、あつぎ市民交流プラザ

「アミューあつぎ」で開催された、「県央地区探究的学習発表会」に参加しました。

C組の熊崎鈴音さんは、「なぜ日本のアニメは世界で人気か」F組の串田夏美さんは、「海の生き物はどうやって満月の日を知るのか？」のテーマでそれぞれ2ターム(回)の研究発表を行いました。

なぜ日本のアニメは世界で人気が出たのか？

テーマ設定の理由
日本と海外のアニメには違いがあるため人気が出たと考えた。
それには文化や思想の違いが影響していると思われ、このテーマを探究することでその違いを深く知ることができるのではと思ったから。

日本と海外のアニメの違い
対象とした年齢層、イラスト、内容

対象とした年齢層の視点から！
そもそも海外のアニメは子供が見るためのもの。
専門チャンネルでしかアニメは放送されず、子供向け作品が量産される。
視聴者のほとんどは子供たちである。

でも日本では...
地上波チャンネルだから色々なチャンネルで放送できる。
そのため大人向けも子供向けも作られるように。

イラストの視点から！
海外のアニメは子供受けのイラストで描かれている。
日本は現実寄りのイラストで描かれている。

内容の視点から！
日本は深く多様なストーリー、キャラクターの心情描写の細かい。主人公は普通の高校生や一般人。
海外は子供でもわかりやすい単純なストーリー。主人公は特別な存在であることが多い。

文化の違いが影響

日本では
お辞儀や会釈、その場の空気を読む。集団意識が強い。本音と建前が存在している。自分に似た境遇と好き。

海外では
声を出して挨拶、思ったことそのまま話す。集団意識が弱い。自分らしく生きることが当たり前。憧れの対象を好き。自分らしさ。

まとめ
日本のアニメは普段表現することできない心情が含まれていたり、言葉の裏に別の意味を隠したりなど、多様な内容に。普通の主人公であるほど共感する。
海外のアニメは文化自体にも対象年齢的にもわかりやすい内容に。自分らしく生きている主人公に憧れを抱く。
子供向けのアニメが多い。海外では、複雑なストーリーで描かれる日本のアニメには憧れの気持ちがある。その違いが心を動かしている。

海の生き物は どうやって満月の日を知るのか？

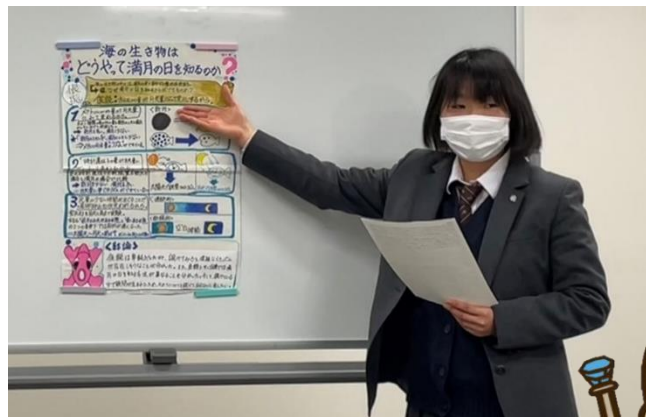
根拠
海の生き物の中には、満月の光に反応する種が存在する。
なぜ満月の日を知る事ができるのか？
仮説：ホルモンの量が月光量によって変化するから。

1. メトニンの量が月光量によって変わるから。
ある2種類の魚のホルモンの量を新月のときと満月のときに向けて測定した。
→ 新月：多い、満月：少ない
★ 新月のときより、満月のときより少ない
⇒ メトニンの量のリズムが違っている。

2. 時計遺伝子の量が月光量によって変わるから。
魚の時計遺伝子の発現量を新月の場合と満月の場合で比較した。
→ 新月：少ない、満月：多い
⇒ 月光量に準じたリズムが違っている。

3. 光量の少ない時間が生じることで、産卵が抑制されたりするから。
産卵灯を月光と見立てて実験。
すると「前年のみ光がある状態」と「全く光がない状態」の2つの条件下では産卵が減少した。
⇒ 太陽光～月光の間接的な影響が産卵に影響している。

結論
仮説は単純だったが、調べてみると複雑なメカニズムが存在していることが分かった。また、魚類とサカナ以外では満月の日を知る方法が異なることも分かった。そして、調べている中で疑問が生じたため、それについて調べて、自分なりに考えた。



発表が素晴らしかったのはもちろんですが、何より一番感動したのは、さまざまな質問に対するお二人の応答ぶりでした。知識も思考も深いので、また何度も発表を重ねているので、他校の代表生徒や、校長先生がたからその場で出たちょっと難しい質問にも、自分の言葉で、実に的確に詳しく答えていて「発表も良かったけれど、この質疑応答が一番素晴らしい！」と褒められました。お二人が将来どんな素敵な大人になるのか、本当に誇らしく、ワクワクしました。

昨年度は1年生全員で体育館で同様にポスターセッションを行い、県央地区大会はオンラインでした。なぜ今回昨年度にも増して、素晴らしいプレゼンができたのでしょうか？

昨年度の12月校内発表会のまとめの時、進路支援グループの総括教諭熊谷先生と、2学年の進路支援で探究学習担当の松浦先生は、**①どれだけ真剣に取り組むかが人生を分ける！**
②どんなテーマを設定するかが一番肝心である！という話をしました。75期生は1年生の時の経験を活かして、それぞれ成長したのだと思います。そして、成功の秘訣はひとえに授業の発表のためだけでなく、**自分自身の生きる道と出会うために、各自が自分の好きなことを主体的に、楽しんで探究した**かどうか、にほかなりません。それは県央地区大会に参加したどの県立高校の生徒にも、本校の他の生徒達にも、等しく言えることで、大好きなことがあって、それを真剣に探究した生徒たちの成長ぶりには目を見張るものがあります。

3年生はこの活動を、**AO入試でのプレゼンや、公募型推薦の自己PRなど、進路活動に直接活かす**ことができおり早くから探究活動に、主体的に真剣に取り組むことの大切さを実感していることと思います。

教えてくれるのを待ち、受け取るだけの時代は終わりです。厳しい世の中ですが希望を持って、楽しく自分を知り、**各自の興味に基づいて小さな行動を重ねていくことで、自分の「大好き」と出会い、キャリアを切り開いてほしい**と願っています。

